

目次

一、組合運動一般報告	一頁
二、諸會議記	六頁
三、組織部報告	三頁
四、教育出版部報告	三頁
五、政治部報告	三頁
六、國際部報告	三頁
七、調査部報告	四頁
八、失業海員救済事業報告	三頁
九、其 他	三頁
十、會計部報告	三頁

組合運動一般報告

昭和六年度本組合運動の一般過程を報告するに先立つて、本組合運動を全面的に拘束する吾國經濟事情、特に吾國海運情勢に就いて是を概説しなければならぬ。

世界的恐慌の渦中に喘ぐ日本資本主義救済の使命を帯びて登場せる民政黨内閣及政友會内閣は、共に資本主義の末期的特徴として、従來彼等が標榜することを常とした一切の民衆僞購政策を放棄し、吾國金融資本家を網羅せる全國産業團體聯合會と策應して、露骨に金融資本家本位の財政經濟を斷行し、爲に無産大衆の失業、半失業及減給を激化して、彼等を饑餓線上に驅り立て、生活不安の暗雲は吾國全土を蔽ふに至つた。

日本經濟の觸手的役割を有する海運界は、千六百五十八隻、三百八十四萬噸（昭和七年一月末現在、總噸數一、〇〇〇噸以上の汽船）の商船隊によつて構成されてゐるが、その内部勢力は四百有餘の大小企業體に分屬し、其間五十餘の運賃協定が存在し、更に百二十七社をもつて日本船主協會を組織し、その傘下に八百八十七隻、三百三十五萬七千四百二十六噸（昭和七年三月末現在）を集めてはゐるが、前者は日本商船隊が包容する過剩船腹の故に不斷に脅かされて協定率を破壊し、後者はその最も重要な統制機能と、自主的政策と、海運界の前途に對する見透しの能力を缺くがために、單なる存在に止まる一方、海上保險業者によつて組織せられた船舶保險協同會は、その世界に冠絶せる組織をもつて此等の商船隊を壓迫すると同時に、金融業者は極度の警戒を續け、政府亦その傳統的重厚保護政策を僅に維持するに止まり、ために海上資本家群は今や永久の「赤